

【瀬谷区】令和 2 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和 2 年 2 月 5 日 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】川口広議員</p> <p>【議 員： 2 名】花上喜代志議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区： 4 0 名】森秀毅区長、石原孝副区長、 五十嵐吉光福祉保健センター長、 藤澤智明福祉保健センター担当部長、 井上義晃土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	1 令和 2 年度 瀬谷区編成予算案（個性ある区づくり推進費）
発 言 の 旨	<p>花上議員：自主企画事業費が前年と比較し、56万9千円の減となっていますが、予算的には減少傾向にあるのでしょうか。</p> <p>森区長：本市では、非常に厳しい財政状況が続いておりますが、区の自主企画事業は、本市の中でも現場を大切にするという意味で、現状を維持していると思っています。</p> <p>花上議員：区の自主企画事業費について、18区の区長はどう思っているのでしょうか。</p> <p>森区長：18区の区長全体での議論を最近はしておりませんが、局の予算の傾向を考えますと、現場である区役所、土木事務所は大切だと考えていると感じています。ただ、住民ニーズの高まりの中で、人員体制が不足気味なところがありますので、そのところは、局に働きかけていく必要があると思っています。</p> <p>花上議員：人員体制の不足というのは、どういうところですか。</p> <p>森区長：大きく言いますと、児童虐待への対応、高齢者への対応、生活困窮者への対応、激甚化している災害への対応等があります。福祉保健センターの職員は、かなりストレスを抱えていると感じています。</p> <p>花上議員：現場の職員は身体的、精神的に大変だと思いますが、福祉保健</p>

センター長は、どうお考えですか。

五十嵐福祉保健センター長：局には、対象者に見あった職員配置を要望していますが、なかなか難しい状況なので、引き続き要望していきたいと思っています。

花上議員：行政の役割は大きいと思います。その中で、区役所と局との役割をもっと精査するべきと考えますが、福祉保健センター長はどう改めていくべきと考えていますか。

五十嵐福祉保健センター長：専門職がやらなければならないことは、内部の専門職で実施する。また、外部委託できるものは外部委託する。そのバランスが大切と考えています。

森区長：区がばらばらで実施している業務の中で、局が一元的に集約して実施したほうが効率的な業務については、局が実施するようなことも検討しています。

花上議員：市営南台ハイツ「高齢者生活相談所」の増額した予算は、何に使用するのですか。

門脇高齢・障害支援課長：市営南台ハイツ「高齢者生活相談所」は、すでに10年を経過しており、フロアマットの交換ですとか、施設の一部修繕等に使用したいと思っています。

花上議員：現在は、「高齢者生活相談所」という位置づけですが、区民全体が利用できる施設にならないのかと考えています。区としては、どう考えていますか。

門脇高齢・障害支援課長：区民全体の利用となりますと、運営費の関係もでてきますので、局とも相談しながら検討したいと思っています。

花上議員：防災スピーカーが4基設置されて、良かったと思っていますが、地域の声はいかがですか。それを踏まえて区の考えを教えてください。

村上総務課長：防災スピーカーは、地域のご要望をいただいて設置されたものですので、地域の皆様には喜んでいただいています。ただ、スピーカーの特性上、場所によっては聞こえにくいということがあります。そのため、区ではメール等、色々な情報伝達手段の確保が大切と考えています。地域の連合町内会長さんとの意見交換では、「隣同士の声掛け」も大切というようなご意見もいただいていますので、地域の皆様と一緒に、多様な伝達手段を考えていきたいと思っています。

花上議員：地域防災拠点訓練に参加しますと、地域により、集合する人数

に差があるように思います。地域防災拠点訓練はしっかりと、行わなければいけないと考えますが、現状を踏まえ、区の考えを聞かせてください。

村上総務課長：地域防災拠点の運営委員会の体制等により、参集人数に差がでているものと思います。運営訓練、消火訓練、中には夜間訓練を行っている地域もありますので、そういった取組を各地域防災拠点同士で共有できる機会も設けていきたいと思っています。区にも地区支援チームがありますので、職員を通じて地域防災拠点の機能強化を進めていきたいと考えています。

花上議員：様々な災害が発生している中で、企業の自衛消防隊等が訓練をしていますが、新年度、消防署ではどのようなことを考えていますか。

堀田瀬谷消防署副署長：予防課では「町の防災組織」、警防課では「災害を想定した消防隊等」の地域密着型の訓練を考えています。

花上議員：消防団の活動状況はどうですか。

堀田瀬谷消防署副署長：瀬谷区の消防団のレベルはかなり高いと認識しています。訓練としては、実際の火災を想定した訓練等、年間を通じて、様々な訓練を行っています。

花上議員：消防団員になる方も、最近はお勤めしている方が多いようですが、いざ、災害が発生した時に消防団員が集まらないということは避けなければならないことです。そのところの消防署の認識はどうですか。

堀田瀬谷消防署副署長：2年ほど前の台風の際には、定員310名のうち240名ほどが参集していただきました。それを見ましても、みなさん、危機に対する認識を持ってお住まいになっていると感じています。

花上議員：境川と阿久和川の浸水対策について、教えてもらえますか。

井深土木事務所副所長：河川については、用地等の買収が進むように検討費が予算化の予定です。下水関係では、浸水対策として、相沢第二雨水幹線等を進めていく予定です。

花上議員：国際園芸博覧会の実行委員会を設立するということですが、この実行委員会に期待するものはどういうものですか。

八子区政推進課長：基本的には、瀬谷区制50周年実行委員会のメンバーを国際園芸博覧会実行委員会のメンバーとしてお願いしたいと考えています。大成功した瀬谷区制50周年事業のノウハウを国際園芸博覧会の招致に生かしていただきたいと思っています。

花上議員：来年度は、実行委員会として、何をやっていきますか。

八子区政推進課長：来年度は、園芸博覧会の招致にむけての進捗状況を情報共有していくこと。それと、瀬谷駅の北口等で機運醸成を図っていくようなイベントの開催を予定しています。

花上議員：「せやマルシェ」というのは、具体的に何をやるのでしょうか。

八子区政推進課長：地産地消の観点から、農産物を瀬谷駅の北口で販売をいたします。また、それに併せて、国際園芸博覧会への機運醸成を図るようなものを行っていきたいと思います。

花上議員：商店街がシャッター通りになってしまうというような話を聞きます。瀬谷区の商店街連合会や工業会をバックアップするような視点も大切だと思うのですが、いかがですか。

八子区政推進課長：商店街や地域と一緒に、様々なイベントを行っていきたいと考えています。

花上議員：区民文化センターの愛称を募集するということですが、どんな愛称が考えられますか。

森区長：愛称は、区民のみなさんから広く公募をして、瀬谷らしさが伝わるようなものがないと思っています。良いアイデアをいただいて、素晴らしい愛称としたいと思います。

花上議員：いきいき区民顕彰ですが、長く自治会・町内会長を務めていただいている方は、他の表彰制度で、別に表彰されている方もいらっしゃるのではないかと思います。そのところの整理はどうされているのですか。

村上総務課長：いきいき区民顕彰では、会長職以外の自治会・町内会を支えている、副会長さん、会計さん等の役員の方を顕彰対象者とさせていただいていますので、重なりはありません。

花上議員：製造業である、ものづくりというのは非常に大切なことだと思います。瀬谷区でもパネル展等を行い、工業会の活動も知られてきたように思いますが、さらに支援できるものはありますか。

岩上地域振興課長：パネル展に関しましては、瀬谷区だけではなく、西部工業会である、保土ヶ谷区、旭区との連携を考えています。また、新規事業である「せやっこわくわくワーク」の中で、体験型の授業に学習型の要素を入れ、ものづくりの楽しさを知っていただきたいと考えています。

花上議員：工場で実際に工作機械等を動かすというような学習機会は、将来に大きな影響を与えると思うのですが、学校も含めて、対応はいかがで

しょうか。

岩上地域振興課長：学校でも、様々な場所に視察等に出向いていると思いますので、学校の先生方とも意見交換をしたいと思っています。

久保議員：新規事業の「体験型防災プログラム」というのは、どのような内容で、どういう想定ですか。

村上総務課長：お子さんと保護者を対象と考えています。区役所5階の会議室をパーティションで仕切り、その中に、地震発生を想定したいくつかのミッションを用意して、一定時間内にクリアするという、自助を強化するようなことを考えています。

久保議員：「町の防災組織機能強化事業」での「外国人向け防災研修会」は、どのような内容なのですか。

村上総務課長：研修は過去2回行っていきます。資料として2年前に多言語の防災啓発用の冊子を作りましたので、それを活用しています。昨年度は公募により、区役所で実施しましたが、今年度は、出張型ということで、消防署と連携し、けむり体験、消火器の使用方法等の研修も行いました。来年度は、この2回の経験を踏まえて、もっと人を集める工夫をしたいと思っています。

久保議員：様々な言語に対応できるのでしょうか。

村上総務課長：今年は中国やカンボジア等、複数の言語の通訳をつけて対応しています。

久保議員：地域防災拠点へのニーズは、どう把握されているのですか。

村上総務課長：地域防災拠点の運営委員会に区役所職員が出席していますし、総務課の防災担当が出向いて直接説明をするなどもして、ニーズの把握に努めています。

久保議員：イヤイヤ期のリーフレット作成の狙いを教えてください。

柴山こども家庭支援課長：イヤイヤ期の子どもに対する接し方等の相談がある中で、より効果的なアドバイスをさせていただこうと思っています。

久保議員：「外国につながる子育て世帯への支援」ということですが、いま、外国人が一番多いエリアはどこですか。

柴山こども家庭支援課長：エリア的には、阿久和、細谷戸等ではないかと思っています。瀬谷区内に居住する外国人では、中国の方が一番多く、次にベトナム、フィリピンと続いています。

久保議員：窓口で外国の方がいらっしゃった時、通訳は大丈夫なのでしょう

うか。

柴山こども家庭支援課長：新たな取組としてポケトークを使用しています。区役所の窓口に置いてありますし、外国籍が特に多い公立保育園にも置いてあります。

久保議員：「せやっこわくわくワーク」は、企業、大学と連携して、とありますが、企業は大企業、中小企業、どんな企業を想定しているのですか。

岩上地域振興課長：企業については、西部工業会や地元の企業を中心に、ご協力いただけないかと思っています。

久保議員：児童虐待ですが、双子を養育している母親のための研修とありますが、どのような研修会なのでしょう。

柴山こども家庭支援課長：この事業は、双子の会ということで、福祉保健センターから、対象のご家庭に働きかけ、集まっていただき、お話をしていただくことが中心となります。これまで年2回でしたが、来年度は年3回実施していきたいと思っています。

久保議員：「認知症地域支援事業」では、関係部局と連携強化を図るということですが、どのような連携強化を図るのですか。

門脇高齢・障害支援課長：医師会と地域包括支援センター、その他団体と年2～3回の話し合いを行っています。また、医療機関に認知症に関するリーフレットを置いていただく等、普及啓発をお願いしています。

久保議員：ホームページのイベントカレンダーを活用している区もあれば、あまり活用していない区もあるのですが、瀬谷区ももっと活用していったほうが良いと思うのですが、いかがですか。

八子区政推進課長：市のルールを確認しながら、積極的にイベントを記入していきたいと思えます。

川口議員：瀬谷区民の文化を愛する気持ち、文化度といったものが非常に高いと感じています。こういった、文化度を高めていく予算についての考えを聞かせてください。

森区長：国際園芸博覧会を目指して、現在はハード面が目立っていますが、ソフト面という文化の心というものも重要なテーマとして今後取り組んでいきたいと思っています。

川口議員：地域バスの相談窓口はどこの課になるのでしょうか。また、現在相談されているものはありますか。

八子区政推進課長：地域バスについては、区政推進課が担当課となってい

ます。現在は、具体的な要望とまではなっていませんが、広聴関係で、バス路線の本数の増加等の提案がきています。

川口議員：瀬谷区は高齢者が多く、今後、買い物困難者等が増えていくことが予想される中で、地域バス等の取り組みを視野に入れているのでしょうか。

森区長：区民の皆さんからの強い要望がある場合には、道路局と調整しながら、可能な支援をしていきたいと思っています。

川口議員：小さなお子様を持った、お母さんからの意見で、「授乳施設のある施設が分かるものがありますか」ということなのですが、何か資料はあるのでしょうか。

山梨学校連携・こども担当課長：赤ちゃんの駅という事業の中で、保育施設や地区センター等、おむつ替えや授乳等ができる施設が区内30か所あります。ご協力をいただいている施設にはステッカーを貼っていただき、利用者にわかるようにしています。

川口議員：今後、そのようなネットワークが広がっていきそうですか。

山梨学校連携・こども担当課長：なかなか難しいところですが、今後も積極的に働きかけを行っていきたいと思っています。

川口議員：防災訓練で、9月の暑い時期の校庭に多くの方が立って、開会式、閉会式を行っています。その結果、倒れたりしているが、出ている現状があります。地域の方の思いもわかりますが、そういったことを回避するためのアイデアはありませんか。

村上総務課長：実施時期については、地域で話し合い、割と涼しい時期に訓練を行っている地域もありますが、やはり、9月1日の意味を大切にしている地域もあります。その場合、訓練時間を短縮するとか、水分補給を頻繁に行うとかの対応をしているところです。今後も実施時期等の議論が深まるような投げかけをしていきたいと思っています。

川口議員：国際園芸博覧会の開催中、またその後のテーマパークが完成した場合、現在使用している野球場が無くなってしまおうと思うのですが、そのあたりはどうお考えですか。

八子区政推進課長：スポーツ施設については、地域の方々の声を受け止めながら、都市整備局と情報共有をし、検討していきたいと思っています。

森区長：野球場は歴史のあるものですから、現在と違う場所になったとしても、野球ができる環境を継続したほうがいいと思っています。

	<p>川口議員：「せやマルシェ」ですが、瀬谷駅北口の活性化という意味では、区単位の予算だけではなく、局の予算も活用できませんか。</p> <p>八子区政推進課長：区づくり推進費だけではなく、局予算も合わせて実施したいと考えています。</p> <p>川口議員：瀬谷駅北口のイルミネーション事業に必要な電気はどこからひいてきたのでしょうか</p> <p>八子区政推進課長：電気につきましては、マルエツ瀬谷店様にご協力いただき、コンセントをお借りしました。</p> <p>川口議員：今年も「瀬谷フェスティバル」の来場予定者数が6万人とありますが、より正確な数字のほうが、今後に活かされると思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>岩上地域振興課長：「瀬谷フェスティバル」の来場者数については、瀬谷警察署と確認をしまして、瞬間の人数×時間ということで、おおよその人数を発表しています。あくまでも、延べ人数ということでご理解いただければと思います。区民祭り等の来場者数の取扱いは、各区難しいところがありますので、18区の地域振興課長会でも問題を共有していきたいと思っています。</p> <p>川口議員：読書活動をしている学生サークルとの懇談会の時に、「SNS等を通して、図書館の混雑状況が分かれば、図書館を利用する機会も増えると思う」というような話があったのですが、こういったことは可能でしょうか。</p> <p>大嶋読書活動推進担当課長：図書館も、少ない人数でローテーションを組んで運営している関係で、現在は、いまある作業をこなすので精一杯な状況です。そのようなことから、いまずぐには、SNS等での配信は困難と思っています。</p>
備 考	